

# 京都大学人文科学研究所共同研究実績・活動報告書

(3年計画の1年目)

## 1. 研究課題人の分類と人種化に関する国際比較研究

A Comparative Study of Classification and Racialization

## 2. 研究代表者氏名

竹沢 泰子

Takezawa Yasuko

## 3. 研究期間

2020年4月-2023年3月(1年目)

## 4. 研究目的

本研究は、ある社会や地域の間が他者をどのように分類し、名づけ、また人種化するか、それがどのように社会経済的不平等を生産・再生産するかを考察する。人の分類や人種化においてどのようなマーカー（目に「見える」身体的相違であれ、「見えない」神話的な身体的特徴とされるものであれ、あるいは差異と認識されるものの文化的具現であれ）が動員されるかを吟味する。

具体的には、ひとつは、『環太平洋の移動と人種』に加筆修正を加えて英語版を作成する。その際、アジア型の人種化と環大西洋型の人種化が、人の移動によって遭遇し、絡み合う交渉の場として環太平洋を捉えなそう。第二は、フランスのEHESS-TEPSISとの日仏共同研究をさらに発展させ、南北アメリカと異なるヨーロッパと日本の共通性、また互いの差異を考察する。第三は、遺伝子検査ビジネスにかんする文理融合の国際共同研究である。具体的には、遺伝子検査会社のウェブサイトにおける「祖先分析」をめぐる日本語・中国語・英語の記述を比較し、それぞれの社会的傾向を探る。

This project aims to examine the ways in which people in certain societies or regions categorize others, label and racialize them - resulting in the production and reproduction of various forms of socio-economic inequality. It investigates the markers mobilized to categorize and racialize others, whether they are visible phenotypical differences, invisible and mythical bodily features, or cultural embodiments of perceived "differences," which may relate to the unequal distribution of resources and power. The project addresses how various processes of racialization are reproduced or transformed over the years.

We will conduct this project using three different approaches. One approach is

based on an international comparison between various different websites, written in Chinese, Japanese and English, relating to genetic testing. It is organized around the research subjects' "discovery" of their respective ancestries. The second study aims to articulate the similarities and differences in racialization between Japan and Europe by a collaborative study with the EHESS in France. Thirdly, we will continue our discussions on the Trans-Pacific as a space of negotiation between racialization pronounced in Asia and one in the Trans-Atlantic and how the intertwined and nested structure manifest in the Trans-Pacific.

## 5. 本年度の研究実施状況

2020年5月に警察官によって殺害されたジョージ・フロイドさんの死を契機に世界中で高まったブラック・ライヴズ・マター（「黒人の命を粗末にするな」）運動を受け、2020年6月に「緊急リレートーク：ブラック・ライヴズ・マター運動の背景と課題」を主催し、国内外から500人近い参加者が集い、議論や意見交換を行った。さらに新型コロナウイルスの感染蔓延によって、日本社会においても、「目に見えない」差別が社会問題となっている。この問題を深く掘り下げて議論するために、「コロナ時代の人間のちがいと差別」と『ちがいと差別～人類学からの提言～』という二つのシンポジウムを主催した。さらに国際発信という点では、『環太平洋地域の移動と人種』（京大出版 2020年）の合評会を2回開催し、英語版出版に向けて準備している。またフランス EHESS の研究者たちとの共同研究の成果は、“ALTÉRITÉ, RACE ET UNIVERSALISME : UNE HISTOIRE JAPONAISE.” (Politica 特集号 2021年1月—3月) として刊行される。

## 6. 本年度の研究実施内容

2020-06-21 緊急リレートーク：ブラック・ライヴズ・マター運動の背景と課題 趣旨説明＋閉会の辞：ここからどこへ向かうべきか？ 発表者 竹沢泰子 人文科学研究所

2020-08-06 コロナ時代の人間のちがいと差別 ブラック・ファイヴズ・マター運動から考える身のまわりの差別 発表者 竹沢泰子 人文科学研究所 発表者 山極寿一 京都大学総長 発表者 徳永勝士 国立研究開発法人国立国際医療研究センター

2020-08-24 『環太平洋地域の移動と人種』合評会 司会 竹沢泰子ほか 人文科学研究所 発表者 田辺明生 東京大学大学院総合文化研究科 発表者 成田龍一 日本女子大学人間社会学部

2020-10-11 「ちがいと差別～人類学からの提言～ BLM運動から考える身のまわりの人種差別 発表者 竹沢泰子ほか 人文科学研究所 発表者 山極寿一 京都大学総長 発表者 徳永勝士 国立研究開発法人国立国際医療研究センター

2020-11-04 「ちがいと差別～人類学からの提言～ 反省会 発表者 竹沢泰子ほか 人文科学研究所

2020-12-01 visibilities and invisibilities コメンテーター 竹沢泰子ほか 人文科学研究  
 研究所

2020-12-22 同上 コメンテーター 竹沢泰子ほか 人文科学研究  
 研究所

2020-12-27 『環太平洋地域の移動と人種』合評会 司会 竹沢泰子 人文科学研究  
 所 司会 田辺明生 東京大学大学院総合文化研究科

2021-1-4.5 日仏論集刊行のための研究会 発表者 竹沢泰子ほか 人文科学研究  
 所 司会 田辺明生 東京大学大学院総合文化研究科 発表者 太田博樹 東京大学大学院理学系研究科

## 7. 共同研究会に関連した公表実績

なし

## 8. 研究班員

所内

竹沢泰子、石井美保、瀬戸口明久、ティル・クナウト

学内

山極壽一(総長室)、松田素二(文学研究科)、徳永悠(人間環境学研究科)

学外

斎藤成也(国立遺伝学研究所)、海部陽介(国立科学博物館人類研究部)、田辺明生(東京大学  
 文化人類学研究室)、陳天爾(早稲田大学国際学術院)、木村亮介(琉球大学医学研究科)、関  
 口寛(四国大学経営情報学部)、長志珠絵(神戸大学国際文化学部研究科)、太田博樹(東京大  
 学大学院理学系研究科)、John Russell(岐阜大学地域科学部)

## 9. 共同利用・共同研究の参加状況

区分	機関数 (必須)	受入人数					延べ人数				
		総計	外国人	若手研究者 (40歳未満)	若手研究者 (35歳以下)	大学院生	総計	外国人	若手研究者 (40歳未満)	若手研究者 (35歳以下)	大学院生
			(0)	(0)	(0)	(0)		(0)	(0)	(0)	(0)
学内(法人内)	1	8	1	2		60	1	2			
国立大学	5	5	1			30	1				
公立大学											
私立大学	2	2				12					
大学共同利用機関法人											
独立行政法人等公的研究機関	2	2				2					
民間機関											
外国機関	3	7	6			35	34				
その他											
計	13	24 (0)	8 (0)	2 (0)	0 (0)	0 (0)	139 (0)	36 (0)	2 (0)	0 (0)	0 (0)

10. 本年度 共同利用・共同研究を活用して発表された論文数

	共同利用・共同研究による成果として発表された論文数			
			うち国際学術誌掲載論文数	
①人文研に所属する者のみの論文(単著・共著)	10		6	
②人文研に所属する者と人文研以外の国内の機関に所属する者の論文(共著)	0			
③人文研以外の国内の機関に所属する者のみの論文(単著・共著)	13			
④人文研を含む国内の機関に所属する者と国外の機関に所属する者の論文(共著)	2		2	
⑤国外の機関に所属する者のみの論文(単著・共著)	1		1	

本年度発表されたインパクトファクターを用いることが適当ではない分野等

雑誌名(必須)	掲載論文数	掲載年月日	論文名(必須)	発表者名
Asian Diasporic Visual Cultures and the Americas	1	R2.7	Major- and Minor-Transnationalism in Yoko Inoue's Art: Power Dynamics and Practices of Co-production.	Yasuko Takezawa
Asian Diasporic Visual Cultures and the Americas	1	R2.7	Trans-Pacific Minor Visions in Japanese Diasporic Art	Yasuko Takezawa and Laura Kina
商工ジャーナル	1	R2.10	米国の黒人暴行死の背景と反人種差別運動	竹沢泰子
月刊保団連	1	R2.10	生物学的には「人種」は存在しない	竹沢泰子
Int' lecowk (イントゥレコウク—国際経済労働研究)	1	R2.10	ブラック・ライブズ・マター運動の背景と意義	竹沢泰子
部落解放研究	1	R2.12	中世におけるユダヤ人・「ジプシー」・河原者をめぐる「特権」言	竹沢泰子

			説	
POLITIKA (フランス国立社会科学高等研究院)	1	R3.3	Race, Cvilisation and the Japanese. Textbooks During the Meiji Period.	Yasuko Takezawa
同上	1	R3.3	同フランス語版 Race et Cvilisation au Japon. Les manuels scolaires à l' ère Meiji.	Yasuko Takezawa
百花繚乱ーひょうごの多文化共生 150年のあゆみ	1	R2.12	第1章 兵庫の多文化共生概観	竹沢泰子
同上	1		コラム GONGO-自治体とNGOの協働の先駆	竹沢泰子
同上	1		コラム 外国人学校等の炊き出し	竹沢泰子
同上	1		第4章 外国人の多様化	竹沢泰子
井原泰雄・梅崎昌裕・米田 穰編 『人間の本质にせまる科学——自然人類学の挑戦』東京大学出版会	1	R3.3	「人種と人種差別ー自然人類学と文化人類学の対話から」	竹沢泰子
『Kyoto University ACADEMIC GROOVE Vol.2 BORDER -- Humanities and Social Sciences』	1	R2.2	「生物学的グラデーションと社会的境界」	竹沢泰子
TOKYO 人権	1	R3.3	ブラック・ライブズ・マターと日本 すべての人にとっての人種問題とは	竹沢泰子
保健の科学	1	R.2.10	「新型コロナ専門家有志の会」の全世代に向けた情報発信の活動より	田中幹人

PLOS ONE	1	R2.6	Japanese citizens' behavioral changes and preparedness against COVID-19: An online survey during the early phase of the pandemic	Mikihito Tanaka
International Journal of Asian Studies	1	R2.4	Genealogies of the "Paika Rebellion": Heterogeneities and Linkages	Akio Tanabe
Anthropological Sciences	1	R2.4	Analysis of ancient human mitochondrial DNA from Verteba Cave, Ukraine: insights into the origins and expansions of the Late Neolithic-Chalcolithic Cucuteni-Tripolye Culture	Hiroki Oota
歴史地理教育	1	R2.8	いま、コロナウイルス禍の中で——社会史研究の成果に学ぶ	成田龍一
思想	1	R2.11	桐野夏生の「1972年」 『抱く女』『夜の谷を行く』『夜また夜の深い夜』	成田龍一
ユリイカ	1	R2.10	原爆・被爆を描く別役実、あるいは戦後表象空間のなかの別役実——『象』	成田龍一
東京人	1	R2.11	東京裁判三部作 追究しつづけた「戦後」の正体	成田龍一
現代思想	1	R2.9	悪疫年2020 序	成田龍一
現代思想	1	R2.10	序・2 1980年代の試み	成田龍一
現代思想	1	R2.11	「越境」する西川長夫 上	成田龍一
現代思想	1	R2.12	「越境」する西川長夫 中 「フランス革命200年」のなかで	成田龍一
現代思想	1	R3.1	「越境」する西川長夫 下 『国境の越え方』をめぐって	成田龍一

本年度発表された高いインパクトファクターを持つ雑誌等に掲載された場合、その雑誌名、インパクトファクター、掲載論文数、掲載された論文

雑誌名	インパクト ファクター	掲載 論文 数	掲載 年月日	論文名	発表者名
Ethnic and Racial Studies	1.72	1	R2.4	Racialization and Discourses of “Privileges” in the Middle Ages: Jews, “Gypsies”, and Kawaramono	Yasuko Takezawa
Ethnic and Racial Studies	1.72	1	R2.5	Book Review of In Search of Our Frontier: Japanese America and Settler Colonialism in the Construction of Japan’s Borderless Empire, by Eiichiro Azuma	Yasuko Takezawa
Communications Biology	4.165	1	R2.8	Ancient Jomon genome sequence analysis sheds light on migration patterns of early East Asian populations	Hiroki Oota

共同利用・共同研究による成果として発行した研究書

研究書の名称	編著者名	発行年月	出版社名
未来からの問い—日本学術会議 100 年を構想する	徳永勝士（執筆分担）	R2.4	日本学術会議
Common disease 解析の最前線	徳永勝士（執筆分担）	R2.12	メディカルドゥ
○Special Issue: Trans-Pacific Minor Visions in Japanese Diasporic Art. Asian Diasporic Visual Cultures and the Americas	竹沢泰子編	R2.7	ADVA

○Trans-Pacific Japanese American Studies: Conversations on Race and Racializations	竹沢泰子編	R2. 8	University of Hawaii Press
The Routledge Critical Whiteness Studies Handbook	竹沢泰子(分担執筆)	R2. 7	Routledge
○百花繚乱一ひょうごの多文化共生	竹沢泰子ほか編	R2. 12	神戸新聞総合印刷
人種」「民族」概念への挑戦	竹沢泰子(分担執筆)	R3. 2	明石書店
Health Promotion: A Practical Guide to Effective Communication	Mikihito Tanaka(分担執筆)	R3. 2	Cambridge University Press
良くわかる現代科学技術史・STS	田中幹人(分担執筆)	R3. 2	ミネルヴァ書房
科学社会学	田中幹人(分担執筆)	R3. 2	東京大学出版会
科学技術社会論の挑戦 II	田中幹人(分担執筆)	R2. 7	東京大学出版会
ソーシャルメディアの現在	田中幹人(分担執筆)	R2. 5	国立国会図書館
Risk and the Regulation of New Technology	Mikihito Tanaka(分担執筆)	R2. 12	Springer
Sustainable Development in India: Groundwater Irrigation, Energy Use, and Food Production	Akio Tanabe(分担執筆)	R2. 9	Routledge
増補「戦争経験」の戦後史	成田龍一	R2. 8	岩波書店
<戦後文学>の現在形	成田龍一編	R2. 10	平凡社

11. 費目の30%を超える大幅な変更があった場合の変更理由  
なし

12. 次年度の研究実施計画

次年度は、主として3つのテーマを中心に研究会を開催する。

1) 『環太平洋における移動と人種』の英語版の出版を目標として、アジア型と環大西洋型の交渉の空間としての環太平洋圏に光を投げながら、英語圏の読者に論点が伝わるよう



にいかにより修正を加えるかを議論する。

2) フランス EHESS とオンラインなどで研究会を行い、ペアを組んだ日仏の5組それぞれのなかで、類似性と差異について議論する予定である。

3) 日本における祖先ルーツをめぐる遺伝子検査ビジネスについて、関連会社に関係者でインタビューを行い、論文を共同執筆する予定である。

### 13. 次年度の経費

		開催回数	国内出張旅費(延べ)	支出予定額
国内旅費	研究会参加費	6	12	240000
	一般旅費			
海外旅費	渡航旅費			
	招へい旅費			
謝金(講演謝金、研究協力者金、その他の謝金)				150000
消耗品等経費				10000
その他				
合計				400000

### 14. 研究成果公表計画および今後の展開等

1) 『環太平洋地域の移動と人種』の英語版としてRace and Migration in the Trans Pacific (Kyoto University Press & Trans Pacific Press)を刊行する予定である。

2) フランス EHESS との共同研究の成果として刊行される“ALTÉRITÉ, RACE ET UNIVERSALISME : UNE HISTOIRE JAPONAISE”の修正・加筆版を、『人種主義と反人種主義の越境と転換』(京都大学学術出版会)として日本語で刊行する予定である。